

マイナンバーカード ここに来て、普及に急ブレーキ？

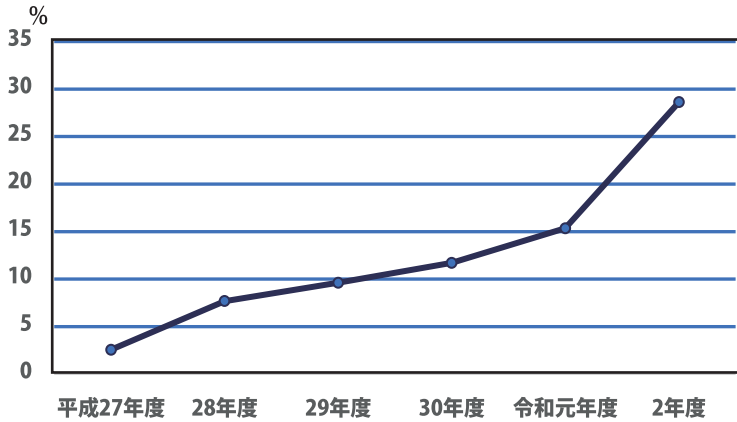
国は来年度末までにマイナンバーカードを全国民が所持することを目指して、様々な普及策をしています。

超 大盤振る舞い!?

その決定打が「マイナポイント」。買い物で使えるポイント。最大5千円分もカードに付与します。

釧路市は大型店に申請会場をつくったり、休日に役所の交付窓口を開けたりと、前のめりです。確かに昨年度は過去最高の2万枚以上が交付されました。

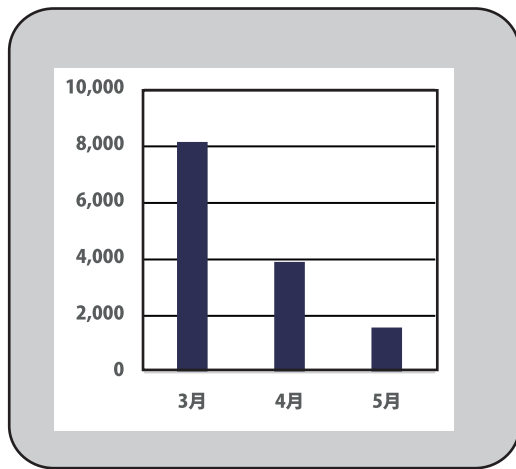
釧路市のマイナンバーカードの交付率



期限が過ぎると...

でもマイナポイントを付けられるカードの申請期限は、今年の4月まで。そのため5月の申請は激減です。来年度末までに全市民がカードを保有するためには、毎月4千5百人の申請が必要です。勢いを失ったカード普及は簡単には進みません。

直近3か月の申請数



マイナポイントに使われた税金は2千5百億円。そもそも便利なカードなら、こんな特典は必要ないはず。情報漏洩や、国による管理強化の心配もあります。湯水のように税金をつぎ込んで普及するなど論外です。

民間病院でも コロナ特殊勤務手当を

市立病院の医師や看護師はコロナ患者に接する仕事をすると、一日3千円から4千円の特殊勤務（防疫・感染防止）手当が支給されます。しかし、行政からの要請を受けてコロナ患者を受け入れた民間病院には、こうした手当はありません。一時的な手当は出せても、継続的な手当を出せる財源がないからです。医療関係の労働組合

今年5月には市立病院では
コロナの特殊勤務手当が
179人に467万円支給されました。



からも市の支援を求め
る申し入れがありました。



村上議員は、「感染症病床のない民間病院がコロナ患者を受け入れることで、結果として市立病院の負担が軽減されている。行政から補助金を出して、民間でもコロナの特殊勤務手当を支給できるように支援すべき」と委員会で質問しました。しかし市は「入院調整は保健所の仕事、市が支援することはできない。議論があったことは関係機関に伝える」と答弁。ちよっと冷たい答弁でした。